

学校サーベイランスによる学年別インフルエンザ患者の罹患率

¹国立感染症研究所 感染症情報センター

○大日 康史¹、菅原 民枝¹、安井 良則¹

目的学校欠席者情報収集システム（学校サーベイランス）は現在 18 都道府県で毎日活用されている。各学校から欠席者の情報が登録され情報共有することにより感染症対策の早期対応が実現している。全校生徒の日々の状況が登録がされているので、確実な罹患率の算出が可能になった。そこで、インフルエンザの罹患について算出を試みた。方法学校欠席者情報収集システムを導入し、かつ安定的に入力が行われている 12 県を対象として、小学 1 年生から高校 3 年生までを対象として、インフルエンザによる出席停止者を集計し、在籍者数を用いた。期間は、2011 年 9 月 1 日～2012 年 3 月 31 日までとした。結果小学 1 年生が最も高く 30%以上であった。それいい高年齢が上がるに従い低下した。ただし、高校 1 年生は中学 3 年生を上回った。他方で、0 歳児を除いて未就学児では年齢が上がるに従い罹患率が上昇した。0 歳児での罹患率は一歳児よりも高かった。考察日本で初めて学年別のインフルエンザ推定罹患率を算出した。発生動向調査以外のサーベイランスで、全数調査が可能になった。日別のサーベイランスであることから任意の期間を設定して算出することもできる。今後の感染症対策で有用性が高いと示唆された。

薬局サーベイランスによる都道府県別のインフルエンザ患者の罹患率の検討

¹国立感染症研究所 感染症情報センター

○菅原 民枝¹、大日 康史¹

【目的】2009 年より開始されている薬局サーベイランスでは、抗インフルエンザウイルス剤の処方件数から、リアルタイムでインフルエンザ患者数を推定している。医療機関からの報告による発生動向よりも 10 日早く、昨日の状況の情報収集が可能になり、インフルエンザ対策に活用しやすくなった。一方で医療従事者や入院ベッドなどの医療資源の適正な配分においては、人口あたりの患者数が必要になる。しかしながら都道府県別では検討されてこなかった。そこで、推定患者数から期間中の罹患率を検討する。

【方法】薬局サーベイランス（薬局数 7716）による 2011 年 36 週～2012 年 35 週、2010 年 36 週～2011 年 35 週、2009 年 31 週～2010 年 35 週のインフルエンザ推定患者数を、都道府県別人口を用いて罹患率を算出する。

【結果】2011/2012 インフルエンザシーズンは（2012 年 29 週現在）、全国平均でインフルエンザ推定罹患率は 7.58%であった。香川県、徳島県、高知県、鳥取県、宮城県が高かった。2009/2010 シーズンの全国平均は、7.26%、2010/2011 シーズンは 5.72%であった。

【考察】発生動向調査以外のサーベイランスで、日本で初めて都道府県別のインフルエンザ推定罹患率を算出することができた。薬局サーベイランスは、日別のサーベイランスであることから任意の期間を設定して算出することができ、必要であれば昨日までの状況で算出できることから、今後のインフルエンザ対策で有用性が高いと示唆された。